

背景説明：吉永契一郎（大学教育センター）

- 日本の大学生の授業外学修時間が少ないという実態（平成 24 年度中教審答申）
- 予習・復習を前提としない講義←シラバスの改善
- 1 学期間に 10 科目以上という履修形態←週複数回授業で科目数を半分以下に
- 講義よりも、実験・実習・卒業研究に時間をかけている実態
- 科目種類別の単位数の再検討
- アメリカの大学から学ぶこと：シラバス・演習中心の講義・テキスト指定・週複数回事業・TA の活用
- Moodle 等教育ポータル・サイトの活用

事例報告 1：有馬卓司（工学部）

- 講義・演習・解答というサイクルの確立
- 学生の関心・応用を意識した講義内容
- 発展的な演習問題
- TA（ボランティア）の活用
- 解答は印刷し、自習とする。
- 工学部電気電子工学科の学習支援室の取り組み

事例報告 2：渡邊 泉（農学部）

- テキストの指定
- 授業では、時事問題を解説し、テキスト関連個所の自習を促す。
- 疑問から学修という流れの確立

事例報告 3：守 一雄（教職課程）

- 6 冊の教材を指定する。
- 授業は講義とディベート・各教材についてレポート提出
- 3 人制ディベート
- レポートの返却
- パラグラフ・ライティングの修得